

第4回走水小学校跡地活用検討協議会 会議録

■日 時：令和7年12月22日（月）19:00～21:00

■場 所：大津コミュニティセンター 第4・5・6学習室

■出席者：協議会委員 出席：9名 欠席：3名

傍聴者 5名

FM推進課（事務局） 課長 山中 理

主査 土田 正和

主任 岩崎 勝美

主任 薄井 良真

危機管理課 課長 小沼 裕司

教育政策課 課長 飯田 達也

大津行政センター 館長 竹内 智巳

三菱UFJリサーチ&コンサルティング 西尾真治（ファシリテーター）

■内 容：<議題>

学校跡地活用の検討

- ・協議会のゴールに向けた協議①

概 要

1 開会

2 事務局挨拶

（FM推進課長）

皆様、あらためまして、こんばんは。

年末の慌ただしい中、協議会に出席いただきありがとうございます。

前回の協議会から3か月ほど経過し、今日は第4回目の開催になります。

前回の協議会では、学校の跡地で持たせたい、あるいは行いたい機能の絞り込みについて、事務局のほうから実現可能性なども踏まえながら説明させていただき、ご意見を頂戴しました。

具体的には、防災面やコミュニティなどの機能のほか、運営方法に関するご意見をいただきましたが、走水小跡地の傾向としては海に面するという立地条件を生かした機能に対するご意見が多くなったように受け止めています。

一方で、協議会としていつまでにどういった形で意見をまとめていくかなど、検討の基礎的な部分についてご質問をいただく場面もあったと思っています。

このため、今日の会議では、あらためて、スケジュール感、報告書のイメージなど、いつまでに何をしなければならないのか共有し、その上で、報告書の各項目で位置付ける情報をいくつかの段階に分けて整理できればと考えています。

若干後戻り感はあるかもしれません、足元を固め、方向性を共有しながら進めていきたいと思っていますので、本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

3 議題

(1) 学校跡地活用の検討

(事務局)

事務局が資料の内容を説明。説明の概要は以下のとおり。

① 走水小学校跡地活用案の検討 資料1

◆協議会の全体の流れと目的（1ページ）

- 協議会の実施回数について、これまでの協議会では、令和7年度内に全5回を予定していたが、これまでの進捗を踏まえ、第6回までを令和7年度内に実施させていただきたい。
- 本日、第4回の協議会では「協議会ゴールに向けた協議①」として、検討結果報告書のイメージや今後の流れ、地域のあるべき将来像、活用のコンセプト、跡地に求める機能を協議いただきたい。
- 次回、第5回で「協議会ゴールに向けた協議②」として、跡地に求める具体的な施設の案や施設の運営方法について協議を進めたい。
- その後、第6回で検討結果報告書を完成させていきたい。

◆今後のスケジュール（2ページ）

- 本格利用開始まで最速で進めた場合のスケジュールを時系列に沿って工程ごとに記載している。
- 令和7年度については、第4回と第5回の協議会で検討を行い、第6回で検討結果報告書を完成させていただく予定で、第6回協議会の前に、3月の市議会定例会で報告書案の進捗について、報告させていただきたいと考えている。
- 令和8年度については、まずは、協議会で完成させた報告書について、走水地域の住民向けの説明会で報告したのち、市議会にも報告を行う。その後、地域や議会のご意見を踏まえ、市役所としての府内案を完成させ、改めて府内案について、議会及び地域に説明を行う予定でいる。
- 府内案について、いただいたご意見を反映させ、令和9年度に、跡地活用事業者選定に向けたプロポーザルを実施し、その結果を市議会へ報告したのち、必要な予算について、市議会の承認を受け、令和10年度から施設改修などを行ったのち、10年度の後半から本格利用を開始していく流れを想定している。

◆検討結果報告書の構成イメージ（3ページ）

- 跡地活用検討協議会での成果物として、検討結果報告書を完成させたい。
- 構成イメージは以下を想定している。
 1. 報告書の位置づけ
 2. 対象地・施設の概要
 3. 地域のあるべき将来像
 4. 跡地活用のコンセプト（大きな方向性）
 5. 跡地に求める機能（カテゴリー）
 6. 跡地に求める施設の具体案
 7. 施設運営の在り方

- 上記の 3 から 5 については第 4 回協議会で、6 から 7 については第 5 回で協議したいと考えており、3 から 6 に進むにつれて、検討内容が具体化していくイメージ。
- ◆ 「③地域のあるべき将来像」について（4 ページ）
- 走水地域の将来像として、事務局案を以下のとおりお示ししており、内容について、ご意見をいただきたい。
 1. 海と自然を生かした教育・観光の拠点となる街
 2. 住民の交流と暮らしを支えるコミュニティ拠点がある街
 3. 賑わいを創出し、地域外からも人を呼び込む街
 4. 災害に強く、住民の安全が確保された街
- ◆ 「④跡地活用のコンセプト」について（5 ページ）
- 「地域のあるべき将来像」の実現に向け、走水小学校をどのような拠点にしていきたいかという跡地全体の活用コンセプトについて、事務局案を以下のとおりお示ししており、ご意見をいただきたい。
 - 事務局案は、「海と学び、人が交わる。走水未来キャンパス」としており、趣旨としては、「走水地域が有する海・自然・歴史という固有の資源を最大限に活用し、海洋自然教育、賑わいの創出、地域コミュニティの強化を軸にした、走水を海と未来を育む教育・観光・コミュニティの複合拠点として活用する」というイメージ。
- ◆ 「⑤跡地に求める機能（カテゴリー）」について（6 ページ）
- 活用のコンセプトに沿って、跡地ができるようにしたいことを整理し、また、求める機能の中から施設の核となるメイン機能を選定したい。
 - 事務局案は、「教育」、「コミュニティ」、「観光・賑わい」、「防災」の 4 点を求める機能としており、このうち、メイン機能を「教育」としている。この案について追加や修正などあれば、ご意見をいただきたい。
- ◆ 「⑥跡地に求める施設の具体案」について（7 ページ）
- ここからは、第 5 回協議会の検討事項となるが、求める機能を整理したうえで、その具体的な施設・取り組み案として、以下のとおり事務局案をお示ししており、次回協議会でご意見をいただきたい。
 - ・「教育」：海洋教育施設、臨海学校、漁協と連携、ほたるの里
 - ・「コミュニティ」：多世代交流スペース、町内会活動スペース
 - ・「観光・賑わい」：地域産品を扱うマルシェ、カフェ
 - ・「防災」：震災時避難所、防災訓練
- ◆ 「⑦施設運営のあり方」について（8 ページ）
- 学校跡地の主な施設運営のパターンとして、「市の直営」、「指定管理者制度」、「施設の貸付」、「施設の売却」の 4 手法を挙げている。「市の直営」が最も公益性が高く、「施設の売却」が最も事業性が高い手法となり、各手法のメリット・デメリットについて記載している。次回の協議会では、具体的な取り組み案と併せて、最適な運営手法についても検討を進めていただきたい。
- ◆ 「（参考）跡地に求める施設の具体例の検討」について（9 ページ）
- 施設の具体案を検討する際に考慮が必要な視点について、これまでの協議会でお示ししてきた事項を改めて記載しており、次回協議会の際に参考としていただきたい。

(考慮が必要な視点)

- ・法令上の制約
- ・施設の物理的な制約
- ・持続可能な運営
- ・近隣住民への影響

②「全国の活用事例」について 資料2

- 運営手法を検討する際の参考資料として、走水小学校と立地環境が類似している他都市の事例を3例紹介させていただいている。
- 1例目は、鹿児島県鹿屋市の「ユクサおおすみ海の学校」で、公募によって選定した事業者に、校舎は無償、敷地は有償で貸し付けている。
- 事業者の役割としては、施設運営や必要な改修、地域連携を行っており、行政の役割としては、校舎の性能回復工事や駐車場、展望デッキ等の整備を担っているという状況で、30万円以上の修繕工事は市が負担している。
- 2例目は、福井県若狭町の「みさき漁村体験施設みさきち」で、学校法人が指定管理者制度で運営し、施設管理業務の一部を地域づくり協議会に業務委託することで、雇用創出と地域住民の関与を確保している。
- 若狭町の役割としては、老朽化による大規模な改修や修繕などの費用を負担している。
- 3例目は、神奈川県三浦市の「三浦 YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジ」で、廃校事例ではないが、横須賀近隣で海洋教育をテーマにしている施設のため紹介している。
- 公益財団法人が指定管理者制度で運営し、県は大規模修繕のみ実施している。

③「事業者からの活用提案書」について 参考資料

- 事務局あてに事業者から提案をいただいたおり、これまで地域の皆様からいただいた内容とは異なる新しい提案であるため、ご紹介させていただく。
- 犬と人のウェルビーイングを軸に、校舎を「学び、交流、地域活性の場」として再生する構想で、具体的には、「愛犬と一緒に宿泊」や「動物福祉・自然教育プログラム」などの機能を想定している。

④「走水みらいミーティング活動報告書」について 参考資料

(委員)

- 協議会のメンバーの中で、みらいミーティングに参加いただいている方もいらっしゃるので、それ以外の方たちに共有したい部分をお話しさせていただきたい。
- みらいミーティングについては、旧小学校の跡地活用が一番大きなテーマではあるが、10年後の走水で見たい風景をイメージしながら、今後の走水について、みんなで考えていく会を作っていくというところからのスタートになっている。
- 今日に至るまで4回の活動をしてきた。第1回目には「10年後に見たい風景は一体何だろう?」というテーマから共通のキーワードをまとめ、第2回目でより具体的なアイデア出しを行い、その中で実際に町内での盆踊りを実施できた。本来は神社で行っていた盆踊りを、小学校を会場とすることで、10年後に見たい風景を実現し、実際に走水地

域の将来の風景がイメージできた。また、子どもたち向けのワークショップとして「うちわアート作り」を企画し、地域の伝統である盆踊りが新たな発展系として皆様の心に残ったのではないかと思っている。

- 実際にやってみた後に、さらに活用の検討アイデアを整理させていただき、第3回では、今まで協議会の中で皆様が出していたアイデアに加えて、地域の中から記載のようなアイデアが色々と出てきた。また、同時に、運営主体や地域の関わり方が課題として挙がった。
- そこで、第4回として、「地域としてどんな関わり方ができるか・したいか？」をテーマに意見を出し合った。メンバーからは、「しっかりと関わっていきたい」という意見が一番多く、資料にある5段階の表示では、レベル5で関わりたいという人もいるぐらい、皆様の意思は強かった。
- 今後、協議会の検討状況も共有しつつ、みらいミーティングと町内会が協力し合いながら、より多くの参加者を募りながら進めていきたい。町内、そしてやる気のある住民によって、活用の着地点まで協力し合えるような活動として続けていきたいと思っている。

【質疑・意見交換】

(ファシリテーター)

- 委員から素晴らしいご発表をいただいた。この協議会で話し合ってきたことと並行する形で、走水の未来がどうあるべきかという議論と具体的な機能までお話ししていただいたので、まさにこういった地域での取り組みをベースにしながら、跡地活用案を具体化していくことが大事だと思う。
- 事務局案がいくつか出ているが、事務局がこの方向でまとめたいという意味での案ではなく、これまでの議論をまとめるとこういう形になるのではないかという案だと受け取っている。みらいミーティングの内容と今までの内容をまとめて、地域の方々の思いや意見が反映された報告書として取りまとめていくよう議論できればと思っている。
- 資料1について、もう一度ポイントを共有しておきたい。1ページについて、元々今年度5回予定していたものを6回にするというお話があった。今回と次回で報告書の構成案に従って議論をしていき、3月に予定されている第6回で最終的な報告書を取りまとめるというスケジュールが説明された。
- 2ページの長期間のスケジュールでは、協議会の報告書は今年度取りまとめ、令和8年度の1年間かけて、その報告書を元にしながら市としての活用案を検討・決定していく。また、府内案として完成させていくにあたって、地域説明会も予定されているので、そこで地域の皆様に意見を聞いて、それを反映して最終的な市の案として決定していく。この地域説明会についても、できれば、みらいミーティングの動きと重ねながらやり方を検討できるとよいと思う。地域での話し合いや意見を反映していくステップがまだ来年度にあると認識できた。その後、最短で令和9年度にプロポーザル、令和10年度に改修という説明だった。
- 3ページの報告書の構成イメージでは、前半部分、地域のあるべき姿や施設の大きな方向性、機能について、今日の話し合いで進めていきたい。次回は具体的な案や施設運営のあり方が議題になっているが、おそらく今日の議論の中でも、具体的な活用のイメージをしながら機能を考えたり、施設運営のあり方をイメージしたりすることもあると思うので、幅広い視点でご意見をいただければと思う。

- 4ページでは、「走水として将来どういう地域にしていきたいのか」という将来像を描いてから、5ページでその実現のために「跡地をどう活用していくのか」というコンセプトを描いていく手順で整理されている。将来像の事務局案としては、「1.教育・観光の拠点」、「2.コミュニティ拠点」、「3.賑わい創出」、「4.防災」といった内容が描かれている。コンセプト案としては「海と学び、人が交わる。走水未来キャンパス」というキーワードにまとめられている。まずは、地域の将来像の描き方と拠点の大きなコンセプトについて、ご意見いただけたとありがたい。

(委員)

- この将来像の案には賛成である。将来像について、みらいミーティングの活動報告書のポリシーとすごく重なると思っている。提示していただけている部分は、まさに今まで話し合ってきたところをうまく言葉にしてくれたと感じている。ただ、みらいミーティングに参加されている住民は一部なので、ゆくゆくは走水全体の意見をこのポリシーの中に反映していきたいが、それにはもう少し時間が必要と感じている。

(ファシリテーター)

- みらいミーティングのポリシー3点とほぼ共通したことが書かれているということで、賛成いただいた。拝見したところかなり似ているとは思うが、例えば事務局案では「交流の拠点がある町」という言い方をしているが、みらいミーティングの方は、交流があることはもちろん、そこから新しい交流がどんどん生まれてくるという動的なところを大事にされていると感じた。そういうところがもう少し報告書にも反映されて、コミュニティがこの拠点を通じて新たに生まれてくるようなイメージが入ってくると、よりよいのではと感じた。
- もう一点、みらいミーティングの共通イメージの3つ目に「持続的なまち」というキーワードがあり、事務局案に持続的なまちとしてあり続けるというニュアンスが入ってもよいのではと思った。

(委員)

- 持続可能なまちということに対しては具体的な案が必要になってくるとは思うが、まさに走水に生まれ育つ子どもたちが未来を作っていく、子育てができるまちを目指すべきと感じており、そこに持続可能という意味も含まれていると思う。未来の走水の共通イメージというところが、文言的な部分で分かりやすくなるよう修正いただけるとありがたい。

(委員)

- 走水地域には残念ながら子ども会がない。昨日、有志のお母様方4名が中心メンバーになって、クリスマス会を走水小学校で行った。2階のチャレンジルームと体育館で思いっきり遊ぼうという話で、具体的には、未就学児童が28名、小学生が21名、中学生が4名の計53名、保護者を入れるとおそらく80~90名、スタッフを入れると100名近くの人が非常に賑やかにクリスマス会を楽しんだ。

- こういった活動は、将来像の中の、子育て、子どもの居場所や、地域内外の幅広い世代が交流し合うという部分にかかってくると思った。こんな企画ができる優秀な人材がまだ走水にいらっしゃるのかと改めて驚いた。ちなみに、私はサンタの衣装をお借りして、サンタクロースをやったが、子どもたちが目を輝かせてプレゼントを受け取ってくれ、とてもよいイベントだったと感じている。

(ファシリテーター)

- 今のお話は、資料 6 ページ、7 ページの機能や具体案に関わる内容だと思う。みらいミーティングの資料でも「子育て、子どもの居場所」が挙げられていて、協議会の中でも意見が出ていたところだが、事務局案の 6 ページではそのキーワードが出ていなかった。コミュニティ機能の中に含めて考えているのかもしれないが、子育てという観点は大事だと思うので、反映できるとよい。

(委員)

- 6 ページの教育のカテゴリーの「ほたるの里」について、先週の土曜日にボランティアの方や子どもたちを中心に、ほたるの里の水路が土で埋まっていたので、それを掘り返す作業をしていた。その際に、給水のパイプが経年劣化でひび割れて水が吹き出しているのを発見し、市で修繕していただいた。そういった活動も活発に行われるようになってきたので、町内会としてもほたるの里やクリスマス会も含め、子ども会をもう一度正式に立ち上げて組織作りをしていくべきではないかと思っている。

(ファシリテーター)

- ほたるの里の活動については、地域の人が関わることで維持できるのではないかという意見もあって、実現可能な機能として報告書に記載することになったものかと思う。今の活動が支えとなり、機能として実現していく方向性に繋げられるとよい。

(委員)

- 事務局にまとめていただいた機能は非常に分かりやすいと思っている。みらいミーティングにも参加させていただいて考えているが、学校はすでに防災拠点としての機能を果たしているので、「防災」というカテゴリーは必要だと思う。また、投票会場というような、小学校がなくなることによって失われてしまう機能があれば、代替地を探すか、もしくは機能としてきちんと組み込んでおくべきではないかと改めて感じた。

(事務局)

- おっしゃるとおり。報告書作成に向けては投票所等も記載するようにしたい。

(委員)

- 2 ページを見ると、令和 9 年度に議会から予算の承認を得るということだと思うが、改修費用など、ある程度細かく算出しないと予算を立てられないと思う。資料 2 の活用事例を見ると 1 億数千万といった予算が出ているが、第 5 回、第 6 回の協議会までにそ

ここまで細かい話ができるのか。また、運営主体などに関しても絞っていかなければいけないと思う。

(事務局)

- おっしゃるとおり、このスケジュールだと第6回までに改修の詳細な予算額等を算出するのは難しいと考えている。今後、協議会や地域説明会の中で出た機能等を具体化した府内案を精査し、最終的には事業プロポーザルという形になると思うが、何をやらなければいけないのか、どういった予算が必要なのか精査していきたいと考えている。

(委員)

- 承知した。ただ、スケジュールを見ると、令和10年度には本格利用開始があるので、ある程度進んでいかないと、この短い期間で開始はできないと思う。

(事務局)

- 令和8年度に府内案を作成していくが、その中で少しずつでも概算を出していく作業は必要になると認識している。

(委員)

- 2ページの今後のスケジュールに「⑤地域説明会」があるが、これは協議会の報告書の内容が決まった後の説明会だと思うが、第5回と第6回の協議会の間にもう一度地域に説明をしていただく必要があるのではないか。それが難しいようであれば、町内あるいは協議会メンバーで地域に説明するということになるのか。

(事務局)

- 協議会での報告書としては、第6回である程度まとめさせていただき、それを地域説明会で説明し、地域の意見を吸い上げた上で、報告書を基本ベースにして府内案を作っていくと考えている。第6回の協議会で全て決定するというイメージは持っていない。

(委員)

- ある程度、地域説明会で出てきた意見を吸い上げて、よりよい方向性を持っていきたいというイメージだと理解した。

(ファシリテーター)

- 今のご指摘は非常に大事なところだと思う。今年度まとめる報告書で決まりということではなく、来年度それをもとに府内案を作るにあたって、地域の皆様に説明するだけでなく、ご意見もいただいて反映していくという位置づけであることが確認できた。

(委員)

- 小学校から国道 16 号線に向かって右の方にある急傾斜地がレッドゾーンに指定されていると思うが、急傾斜地対策の費用についての予算も含めて検討していくのかどうか確認したい。

(事務局)

- 急傾斜について、建物部分はレッドゾーンに指定されていないため、建物を使うにあたり特に処置が必要という認識はしていなかった。活用内容によって必要ということであれば、検討が必要かと思う。

(委員)

- 本格利用開始が令和 10 年という形で検討されていると思うが、それまでの間にみらいミーティングやクリスマス会など色々なイベントがあり、原資がない中で、市から補助が出るのか、それとも町内会で工面するのか。

(事務局)

- 現状、みらいミーティングや町内会で行っていたい活動は、今後の長期的な活用に繋げられないかということで、お試しで実施いただいている状態だと思う。今の段階では市の方で予算面でのお手伝いはできていないが、事業として続ける際には、そこも整理をしていかなければいけないと考えている。具体的には、利用者から実費分の負担をしてもらうような前提の予算組みにするのか等、少なくともプロポーザルの段階では、実際の運営を想定して誰にどの程度のお金を負担してもらうのか整理する形になると思う。

(委員)

- 求める機能の「教育」の中で、「海洋教育、臨海学校、漁協と連携、ほたるの里」とあるが、みらいミーティングの中で出てきたアイデアの中に「市内小中学校のサテライト校舎」というものがあった。これは現役の先生からの意見を聞いた上でのアイデアでもある。本日、教育委員会の方もいらっしゃるが、市内の小中学校から、現状の旧走水小学校に対する活用の要望はあるのか。例えば走水小学校は海の集会で利用したり、先日、わかめの種付け体験で体育館を利用したりしているが、それ以外の少し離れたところの小中学校から利用したいという意見などは出していたりするのか。

(教育政策課)

- 今お話ししたいたのような活動について、広く校長先生の声を聞いているわけではないが、今年の 4 月に統合した馬堀小学校からは、走水小学校の教育財産を活用していくたいという話は聞いている。また、イベントがある際に、お邪魔して使っているという話も聞いている。

(委員)

- 先生方もカリキュラムの中で活動を行っていると思うが、先日、小学校の生徒が海のゴミ問題について調べた活動報告を YMCA 主催の市民会議で発表していたのを聞いた。海に面した横須賀市の児童たちがそういうところに向けて活動していくというのは、とても有意義であると改めて感じた。また、教育といっても、公立だけではない市内小中学校向けにも入っていくべきと思っており、そこを分けてしまうと、せっかく平等に教育を受けている子どもたちにとって不平等が出てしまうような形にはなってほしくないと感じた。

(ファシリテーター)

- 海洋教育施設としての機能が入るのであれば、市内の小中学校のカリキュラムの中で積極的に活用していく側面があつてもいいのではないかというお話だった。郷土教育にも繋がる内容であり、非常によい活用方法ではないかと思う。

(委員)

- 事務局案のコンセプトについては、大変よくまとまっていて、このとおりでよいのではないかと思う。将来像については、みらいミーティングのポリシーにある「持続可能な地域」や「世代間交流」といったキーワードは入れた方がよいと思う。また、みらいミーティングのポリシーでは、「地域内外の人が気軽に集まり、つながりが生まれる」という表現で、事務局案は「地域外からも人を呼び込む町」という表現だが、これについては、みらいミーティングの表現のほうが分かりやすいと感じた。
- これから検討することかもしれないが、全国の活用事例を見ていると、やはりメインになるアクティビティを絞って、そのコンセプトに沿って色々な機能をまとめている。それが主体の活動になって、地域のコミュニティ活動をそこでやっていくという考え方をしているので、何をこの施設の主体にするのかを議論した方がよいのではないか。また、運用面についても、どこに連携するのか、大学と連携するのか、例えば走水コミュニティセンター的な機能を入れてそこが主体になって運用するのか、そういう議論に発展するのではないかと思う。

(ファシリテーター)

- 機能がリストアップされてメイン機能を教育とするところはあるが、もう少し機能同士の関わりやストーリー、どういう使い方をすることでコンセプトが実現できるのかという結びつけを行う必要があるのではないかというご意見だった。

(委員)

- みらいミーティングのポリシーと事務局案の「地域のあるべき将来像」は、同じようなイメージであると思う。今後、住民に案を示していく際に、地域が同じ方向に向かって進んでいくというところが手厚く示されるような文面が完成できたらよいと思っている。そうすることで、住民の理解も進むと思うし、不安に思っている住民も多くいるので、その辺りをうまく受け止めていただけるようにしていかなければよいと思う。

(ファシリテーター)

- みらいミーティングの資料は地域の人の言葉で作られているキーワードという気がするので、できるだけ地域の人たちから上がってきた表現を活かしながら報告書をまとめると、地域の人の思いに近づいていくのではないかと思った。

(委員)

- 将来像やテーマの部分をしっかりとここで捉えて、私たち一人一人が共有し、そこに向かっていくというところがしっかりと認識できれば、具体案に関しても幅広い意見が集められるのではないかと思うので、時間をかけてしっかりと共有していきたいと思っている。

(委員)

- 求める機能の「コミュニティ」のところで「多世代交流スペース」があるが、住民から、町内だけでなく色々な地域の方と交流したい、活動する場所が欲しいという声を聞くことがある。ただ現状では適した場所がなく、町内会館は住民でないと使えない、コミュニティセンターを借りるには高齢者にはハードルが高いといった課題がある。それらを解決するひとつの例として、汐入の総合福祉会館3階にある「本町市民交流スペース」のような、無料で貸していただける場所が多世代の交流に繋がっていくと感じている。そういう機能があると、地域内外の人も集まる場所の一つになって、走水のいいところをもっと知っていただくなききっかけの一つにもなると思っている。また、走水には自然と歴史がたくさんあるので、横須賀の素敵な場所としてPRできるのではないかと思っている。

(ファシリテーター)

- 町内会活動スペースというよりは、人が自由に使えるスペースの方がよいのではないかというご意見だった。みらいミーティングの「地域内外の人が気軽に集まる」というキーワードとも繋がるお話を思う。

(委員)

- 今のお話に関連して、走水の魅力のひとつに、住んでいなくても住民のような気持ちで走水のことを大事にしてくれる「関係人口」の存在がある。海に遊びに来て「ここは自分が育った海なんだ」という人もたくさんいる。横浜の小学生を迎えることもあるが、自然の砂浜で泳げたり、ビーチコーミングできたり、走水を自分の町の海のような位置づけで大切にしてくれたら、将来何か起きた時にも力を貸してくれるのではないかと思っている。高齢者の集いに関しても、横須賀で育って走水で海水浴を楽しんだ思い出の場所だという方が、住民ではない方でもたくさんいらっしゃる。そういった意味で、例えば、「走水バッヂ」のようなものをみんなが持っているとか、そういったイメージをつなげていくと、将来的にコミュニティが理想的なものに育っていくのではないかと思った。

(ファシリテーター)

- 今まででは地域外の人を観光や賑わいで呼び込むという位置づけだったが、コミュニティの醸成や関係人口、走水のファンを地域外にも増やしていくという視点は今まで出ていなかったので、反映していけるとよいと思う。

(委員)

- その意見に関連して、走水の環境を気に入ってくれたら、空き家や空き施設を活用して住民になってもらうという取り組みもできるのではないか。千葉の勝浦などで実施しているが、学校の跡地だけでなく空き家問題も解決したら横須賀市全体にも繋がるのではないかと思う。
- もう一点、走水には「防衛大学校」があるので、そこも活用できないか。その先にはクルーの施設もあり、大学生も来ているので、防衛大学校も一つの核になるのではないかと思う。

(ファシリテーター)

- 走水全体のまちづくりの拠点として活用していこうというお話もあったので、今のお話はすごく大事だと思う。拠点を活用しながらまち全体を持続可能にしていく観点、関係人口を交流人口、さらには定住人口にしていくまちづくりとしての捉え方もコンセプトに入れていけるとよいと思う。

(委員)

- 第3回目の検討協議会で、活用案の一覧表ができていたが、今回はコンセプトや考え方についての議論に絞られていたので、これからまた具体的な活用案を落とし込む作業をやっていくのか。

(事務局)

- 前回は具体案について事務局で「○・△・×」といった形で付けさせていただいたが、一度、まちのあり方やコンセプトを整理した上で、具体的な跡地活用を整理したほうが望ましいだろうということで、今回軌道修正をさせていただいた。具体的な活用案については第5回で、本日のコンセプトや機能までのご意見を踏まえ、改めてほたるの里の維持など、具体的な活用案を整理していきたいと考えている。

(委員)

- 走水小学校では、昔毎年のように「磯遊び体験」をやっていたが、子どもが海で蟹や貝を捕る経験は貴重だと思っているので、漁業権の問題はあるが、要望があるようであれば漁協としても協力したい。

(ファシリテーター)

- 次回、運営体制やあり方の議論になるので、漁協と協力しながら進めていくことも議題になると思う。
- 事務局に確認だが、参考資料として提示された「活用提案書」の位置づけは民間事業者から提案があったということなのか。

(事務局)

- おっしゃるとおり、事務局に直接ご連絡があり、インターネット等で情報を得られたようで、海のロケーションが魅力的な中で、犬と人との調和といった活用でご提案をいただいた。

(ファシリテーター)

- 民間事業者の中でも可能性を感じて提案してきているところが出てきているというところなので、それらも踏まえて、これから報告書取りまとめに向けて進めていければと思う。
- 他にご意見なければ、本日の意見交換は終了させていただく。進行を事務局へお返しする。

(事務局)

- 事務連絡だが、次回第5回協議会の開催日程は1月28日とさせていただく予定。

4 閉 会

(FM 推進課長)

- 本日も遅い時間まで協議会にご参加いただきありがとうございました。今日はこれまでいただいたご意見を整理した事務局案と、みらいミーティングの報告書をご覧いただきながら、様々なご意見を頂戴しました。次回協議会はあまり間を置かずに行います。引き続きご協力をよろしくお願いします。12月も下旬に入り、寒暖差があるので、健康管理にご留意いただきながら、年末年始をお過ごしいただけたらと思います。

- それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。ありがとうございました。

以 上